

平成 2 3 年度事務事業評価調書

平成 2 3 年度作成

平成 2 2 年度 実施事業	<b>事務事業名</b> 姉妹都市交流推進協議会補助金
-------------------	-----------------------------

区分	番号	名 称	
章	6	担いあうまちづくり	
節	2	交流によるまちづくりの推進	
施策	1	国内における交流の場と機会の拡大	
小分類	1	国内の様々な地域との交流の推進	
主要な施策	2	姉妹都市交流等の推進	
事務事業番号	008	事務事業コード 62112008	事業開始年度 昭和 6 0 年度 事業終了年度 平成 - 年度

会計種別	一般会計	予算書上の事務事業名	姉妹都市交流推進協議会補助金
------	------	------------	----------------

部 名	総務部	グループ名	総務 G
-----	-----	-------	------

統合前または名称変更前の事業名	登別・白石姉妹都市交流推進協議会助成金、物産展参加補助金 姉妹都市小中学校交流事業補助金、姉妹都市スポーツ交流事業助成金
-----------------	---

事務事業の目的と成果

目的	(事務事業の実施目的を具体的に記載してください) 姉妹都市となったことを契機に設立した協議会が、両市間における産業、経済、文化、スポーツの交流を通して両市の友好親善と発展に寄与できるよう行う各種交流事業に対し、補助金を支出し支援する。
手段 (事業の内容・活動)	(目的を達成するためにどのような手法で行うのか、事業の概要を具体的に記載してください) 各種交流事業に対し、助成金を支出し支援する。 少年スポーツ交流事業 小学生絵画作品交流展示会 ふるさと豆記者訪問事業 ふるさとを語る交流事業 姉妹都市親善水泳大会 白石市物産展 登別市物産展 登別・白石市職員交流(市直接経費)
成果	(事務事業の実施成果を具体的に記載してください) 白石市、登別市両市間における教育、文化、スポーツ、福祉並びに産業、経済の交流を通して両市の友好親善と発展を図る。
根拠法令等	(事業を実施する際、根拠となる法令・条例・規則・要綱等の名称をすべて記載してください) 登別市補助金等の事務取扱に関する規則

指標の推移

区 分		単位	区分	22年度 実績	23年度 目標	24年度 目標	25年度 目標	26年度 目標
成果 指標	事業実施件数(年度ベース)	件	目標値	8	8	8	8	8
			実績値	8	/	/	/	/
			目標値					
			実績値		/	/	/	/

事業費の推移

区 分			単位	22年度 決算	23年度 当初予算	24年度 見込	25年度 見込	26年度 見込	24～26 年度
事業の 財源内訳	国庫支出金	名称	千円						0
	道支出金	名称	千円						0
	地方債	名称	千円						0
	その他	名称	千円						0
	一般財源	名称	千円	210	1,690	2,210	2,210	2,210	6,630
合 計				210	1,690	2,210	2,210	2,210	6,630
(参考) 上記事業を実施する上で 必要となる人件費			職 員	千円	33	0			
			嘱 託 員	千円	0	0			
			臨時職員	千円	0	0			
			合 計		33	0			

担当グループによる事務事業評価の内容

1. 事務事業の妥当性について			
今後も市が事業主体として実施していくことは妥当ですか？	→	妥当である 妥当ではない	→ 妥当である理由、妥当ではない理由は何ですか？ 登別・白石姉妹都市交流推進協議会は姉妹都市となったことを契機に設立されたものであり、その活動を支援していくことは重要であるため。
2. 事務事業の成果について			
成果はあがっていますか？	→	成果があがっている どちらかといえばあがっている 成果があがらない	→ 成果があがっている理由、あがらない理由は何ですか？ 教育、文化、スポーツ、福祉並びに産業経済の各種事業が積極的に展開されている。
3. 事務事業の成果向上について			
成果を向上させることはできますか？	→	大きく向上させることができる 少し向上させることができる 向上させることはできない	→ どのようにして向上させますか？ 向上させることができない理由は何ですか？ 交流事業の増加等交流のさらなる発展、拡大にはどうすべきか、協議会での議論を促していきたい。
4. 事務事業の経済性・効率性について			
成果を落とさずにコスト（予算や人工、所要時間）を削減することはできますか？	→	削減できる 削減できない	→ どのような方法でコストを削減しますか？ 削減できない理由は何ですか？ 補助金については、各種事業を運営するうえで必要であるが、他の財源対策を見出さない限り、現状維持が妥当であると考える。

担当グループによる評価

<b>維 持</b>	左記の評価を選択した具体的な理由（根拠）	姉妹都市となったことを契機に、民間ベースでの協議会を立ち上げ、現在に至っている。平成23年度以降は、国内姉妹都市交流を所管する総務グループにて交流に係る補助金を一括して予算計上する。
------------	----------------------	---

総合的な評価（当該事務事業の方向性）

<b>維 持</b>	備考
------------	----

評価の種類

- 拡大（事務事業の規模や経費を拡大し、これまで以上に強力に推進する事務事業）
- 維持（現状の対象や目指す姿、手段などに変更が無く、今後も実施する事務事業）
- 改善（現状の手段や経費などを見直し、成果指標の向上等を行う必要がある事務事業）
- 休止（暫定的に休止する事務事業）
- 終了（当初から決められていた事業期間が終了または成果品等が完成し、目的を果たした事務事業）
- 廃止（当該事務事業の予定を変更し、廃止する事務事業）